

BOM for Windows Ver.6.0 SR1 リリースノート

Copyright © 2014 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

このドキュメントでは、BOM for Windows Ver.6.0 SR1 の主な新機能、及び、BOM for Windows Ver.6.0 RollupPackage 2014.4.15 からの仕様変更、不具合修正、制限事項の各内容について、ご案内しています。

■ ■ 新機能 ■ ■	2
1. SQL Server オプションのリリース	2
2. バックアップサービス機能を実装	2
3. インストールソフトウェア変更監視の監視項目を実装	2
■ ■ 仕様変更/機能改善 ■ ■	2
1. メールアクション、通知項目の強化	2
2. Report オプション HDD アクセス率の表示値を固定化	2
3. 集中監視 Web サービスでのインスタンス並び順	2
4. 集中監視 Web サービスでの、ReadOnly ユーザーの一部仕様変更	2
5. 監視結果レコード保持数の変更	2
■ ■ 不具合修正 ■ ■	2
1. Linux テキストログ監視の不具合修正	2
■ ■ 注意・制限事項 ■ ■	3
1. Microsoft .NET Framework の対応バージョン	3
2. Linux オプションのインストールパスについての制限	3
3. 監視ログの削除について	3

■ ■ 更新履歴 ■ ■

- 2013 年 06 月 BOM for Windows Ver. 6.0 リリース
- 2014 年 02 月 BOM for Windows Ver. 6.0 SNMP トラップ受信機能 拡張モジュールリリース
- 2014 年 04 月 BOM 6.0 Rollup Package 2014. 4. 15 リリース
- 2014 年 10 月 BOM for Windows Ver. 6.0 SR1/SQL Server オプションリリース

■ ■ 新機能 ■ ■

1. SQL Server オプションのリリース

- WindowsOS 上に構築された SQL Server の監視を行うオプション製品「SQL Server オプション」をリリースしました。

2. バックアップサービス機能を実装

- Windows サーババックアップを実行する新規サービスを実装しました。

3. インストールソフトウェア変更監視の監視項目を実装

- 監視対象の WindowsOS で、インストールされているソフトウェアの差分をチェックすることができる監視項目を実装しました。

■ ■ 仕様変更/機能改善 ■ ■

1. メールアクション、通知項目の強化

- SMTP Over SSL/TLS, STARTTLS に対応しました。

2. Report オプション HDD アクセス率の表示値を固定化

- 従来は監視した結果の上限値に合わせ HDD アクセス率の表現値を変動していました。突出した値があった場合、極端なグラフ表示となるケースがあった為、HDD アクセス率のみグラフ表示部分の上限値を設け、出力するように変更しました。

3. 集中監視 Web サービスでのインスタンス並び順

- インスタンスを追加した際、従来は集中監視コンソールから集中監視 Web サービスへ対しデータを取得できた順番で表示しておりました。今後は文字コード(ASCII)に従い並び順を保証する形にて実装しました。大文字小文字については ASCII コード順ではなくアルファベット順でソートされます

4. 集中監視 Web サービスでの、ReadOnly ユーザーの一部仕様変更

- ReadOnly ユーザーは従来、設定変更ボタンが表示されず、設定内容は Administrator ロールに準拠していました。今後は次の項目に限り、ユーザーID 毎に変更することが可能になります。
項目名
自動更新間隔
ログ表示件数
サマリーログビューアーのログ表示期間

5. 監視結果レコード保持数の変更

- これまで監視結果のレコード数(アクション、通知含む)は既定で 5000 件までの保持件数でした。今後は保持件数の初期値を 15000 件へと変更します。
※アップデートを行った際も、15000 件へと変更されます

■ ■ 不具合修正 ■ ■

1. Linux テキストログ監視の不具合修正

- 監視の実行中に監視対象のテキストファイルが更新された場合、監視結果の件数が実際の件数より多くカウントされる不具合を修正しました。

■■ 注意・制限事項 ■■

1.Microsoft .NET Framework の対応バージョン

- レポートオプション、及び、VMware オプションの利用には、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 のインストールが必須条件となります。該当する各オプション製品をインストールする前に、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 をインストールしてください。
尚、各 OS によって Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 の表記が異なる場合がありますのでご注意ください。

2.Linux オプションのインストールパスについての制限

- Linux オプションを 2 バイト文字が含まれるパスにインストールした環境では、インスタンスの作成時に実行されるモニタレットの転送や、Linux インスタンスのプロパティから実行できるモニタレットの更新操作に失敗し、モニタレットが Linux コンピューターにコピーされません。また、モニタレットのコピー失敗を示すエラーも出力されません。
Linux オプションは、2 バイト文字を含まないパスにインストールしてお使いいただきますようお願いいたします。

3.監視ログの削除について

監視ログやヒストリーログの一覧やグラフ表示を行っている状態でログの削除を行うと、表示が一時的に正しく行われない場合がありますが、ログを表示しているウインドウを一旦閉じて再度開くことにより正常に表示されます

Copyright © 2014 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.